

## 新しい領域「体づくり運動」について

北川 隆 仲山 正志  
(教育学科教授) (豊能町立吉川小学校)

1. 新しい領域「体づくり運動」について (北川 隆 体育科の運動領域論pp.48-56高橋 他編 体育科教育学入門 2001)  
体づくり運動は、戦後の学習指導要領の設定 他編 体育科教育学入門 2001) 改革の中で、初めて取り入れられとものである。なかでも、「体ほぐし運動」は「体への気づ

表 戦後日本の小学校学習指導要領にみる領域構成の変遷

年	学校	小学校		
		低学年	中学年	高学年
1947	指導要領	体操(徒手, 器械) 遊戯(遊戯, 球技, 水泳, ダンス)	体操(徒手, 器械) 遊戯(遊戯, 球技, 水泳, ダンス)	体操(徒手, 器械) 遊戯(遊戯, 球技, 水泳, ダンス)
1949	体育編試案	鬼遊び, リレー, リズム遊び, 模倣物語遊び, 器械遊び, ボール遊び, 水遊び, 雪遊び	鬼遊び, リレー, ボール遊び, リズム遊び, 器械遊び, 模倣物語遊び, 水遊び, スキー遊び	ボール運動, 陸上運動, 徒手体操・器械体操, リズム運動, 水泳, スキー
1953	体育科編試案	固定施設を使って遊ぶ 力試しの運動をする ボール遊びをする リズムや身振りの遊びをする 鬼遊びをする 水遊びや雪遊びをする	力試しの運動をする リレーをする ボール運動をする リズムや身振りの遊びをする 鬼遊びをする 水泳・スキー・スケートをする	力試しの運動をする 徒手体操をする リレーをする ボール運動をする リズム運動をする 鬼遊びをする 水泳・スキー・スケート
1958	学習指導要領	徒手体操, 器械運動 陸上運動, ボール遊び リズム運動, その他の運動 体育や保健に関する知識	徒手体操, 器械運動 陸上運動, ボール運動 リズム運動, その他の運動 体育や保健に関する知識	徒手体操, 器械運動 陸上運動, ボール運動 リズム運動, その他の運動 体育や保健に関する知識
1968	学習指導要領	体操, 器械運動 陸上運動, 水泳 ボール運動, ダンス	体操, 器械運動 陸上運動, 水泳 ボール運動, ダンス	体操, 器械運動 陸上運動, 水泳 ボール運動, ダンス 保健
1977	学習指導要領	基礎の運動, ゲーム	基礎の運動, ゲーム 器械運動(4年) 表現運動	体操, 器械運動 陸上運動, 水泳 ボール運動, 表現運動 保健
1989	学習指導要領	基礎の運動, ゲーム	基礎の運動, ゲーム 器械運動(4年), 水泳(4年) 表現運動	体操, 器械運動 陸上運動, 水泳 ボール運動, 表現運動 保健
1999	学習指導要領	基礎の運動, ゲーム	基礎の運動, ゲーム 器械運動(4年), 水泳(4年) 表現運動 保健	体づくり運動, 器械運動 陸上運動, 水泳 ボール運動, 表現運動 保健

き」「体の調整」「仲間との交流」で構成されている。本来、この運動が学習指導要領に取り入れられた背景を考えると仲間との交流を重点的に考える必要がある。

しかし、人間関係を育てるための具体的な方法が十分に検討されていないと思われる。他の運動の目標の見えない目標、つまり「他の運動が成立すれば、人間関係は育っているだろう」といった考えがあるのではないだろうか。

ここで取り上げたチャレンジ運動は仲間作りを目指すことが目標として掲げられている。

「この運動はアメリカで生まれ挑戦的な運動課題に集団で取り組み、集団的達成の喜びを味わう中で、仲間作りを目指す運動プログラムである。しかも、自発的で協同的な活動を促進する方法論が適用されている。このような意味で、チャレンジ運動は仲間作り革命的なプログラムである。」

教材の選択に考慮したもの

- ①学校にある施設や用具で簡単に実施できるもの
- ②小学校高学年の児童に適した難度と身体的負荷をもつもの
- ③児童の興味を喚起するもの
- ④自然な身体的接触（特に男女間）をもたらすもの

### 3. 単元指導計画（本時…6時）

時間	1	2	3	4	5	6
5	整列・挨拶・導入 鬼遊び					
10	集合・チャレンジ運動の説明・グループごとに作戦会議・ルール確認					
15	ジャンピング マシーン	ザ・ロック	激流に 架ける橋	川渡り	壁登り	ステーション
20						
25						
30						
35						
40	発表会					
45	学習のまとめ（活動を振り返り、よかったことをG・ごとに誉めあう					

（体育科教育 2001. 第49巻第1号 pp.66-69）

このように仲間作りを目標にするには最適な教材であることが分かる。そこで、体育科教育を参考に6時間の単元を組むことにした。

この学年はある程度男女間で運動することにも慣れている。また、一学年、一クラス20人で過ごしてきているので気心も知れている。

一方、その経過の中で人間関係ができてきてしまい、それを超えて新たな人間関係は作りにくいといった実情がある。この教材を通して、クラスに一石を投じ、子どもたちが新たな関わりをもち、お互いのよさを見出してほしいと考えている。

### 2. 単元学年と目標

「チャレンジ運動による仲間作りの実践」6年生

チャレンジ運動は挑戦的な運動課題に集団で取り組み、集団的達成の喜びを味わう中で、仲間作りを目指す運動プログラムである。この運動を通じ、集団の協力、自発的・協同的活動が期待できる。それは、「体ほぐしの運動」の目的である「仲間との交流」に迫る教材として価値があると考えた。

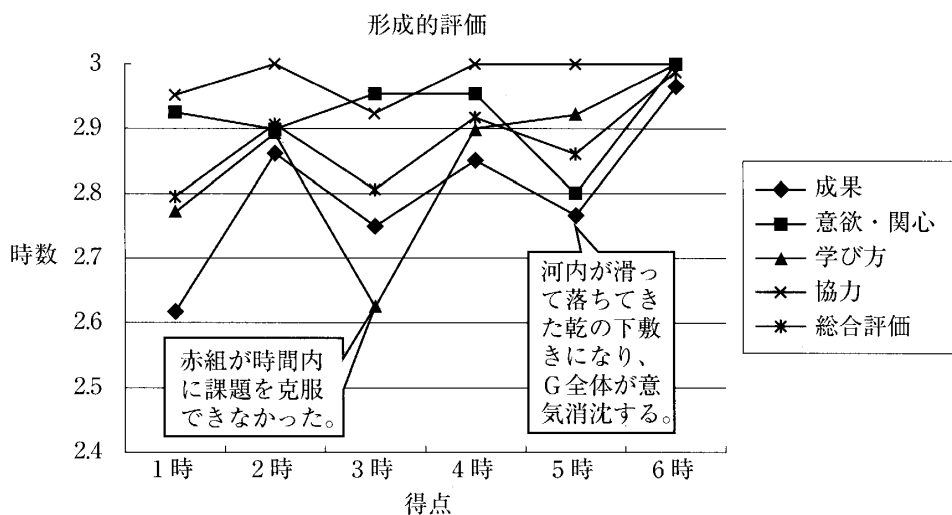
#### 4. 形成的評価カード

<体育授業についての調査>

月 日 ( ) 年 男・女 名前 ( )

- ふかく心にのこることや、かんどうすることがありましたか。(成果)  
(はい、どちらでもない、いいえ)
- 今までできなかったこと(運動や作戦)ができるようになりましたか。(成果)  
(はい、どちらでもない、いいえ)
- 「あっ、わかった!」とか「あっ、そうか」と思ったことがありましたか。(成果)  
(はい、どちらでもない、いいえ)
- せいっぱい、ぜんりよくをつくして運動することができましたか。(意欲・関心)  
(はい、どちらでもない、いいえ)
- 楽しかったですか。(意欲・関心)  
(はい、どちらでもない、いいえ)
- 自分から進んで学習することができましたか。(学び方)  
(はい、どちらでもない、いいえ)
- 自分のめあてにむかって何回も練習できましたか。(学び方)  
(はい、どちらでもない、いいえ)
- 友だちと協力して、なかよく学習できましたか。(協力)  
(はい、どちらでもない、いいえ)
- 友だちとおたがいに教えたり、助けたりしましたか。(協力)  
(はい、どちらでもない、いいえ)

#### 5. 形成的評価グラフ



- 全体的に時間の経過と共に右上がりとなり、子どもたちは興味を持って取り組むことができたことが分かる。(教材としての価値が高いことがわかる)
- 第3時間目は課題がより集団の力を必要としていたため、失敗が多く意欲がやや下がったと思われる。

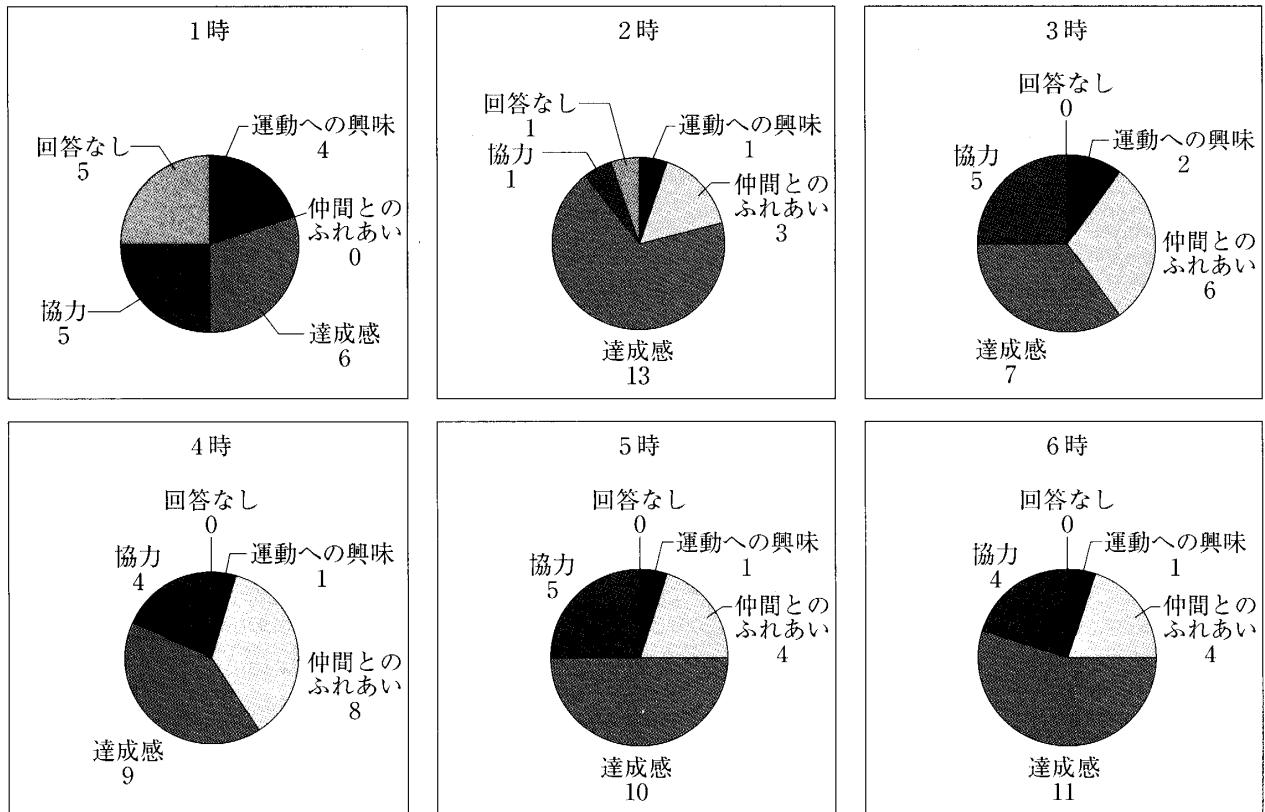
- 第5時間目については、運動課題に取り組んでいるとき、グループの仲間が落下してぶつかるといふアクシデントがありそのグループの評価が下がってしまった。
- 子どもたちの感想(後述)にもある通り、集団としての凝集性が高まったことがわかり、単元目標が達成できたことがわかる。

6. 資料

■ 運動の楽しさの理由の分析

児童の感想の中から楽しかった理由を抜き出して、時間ごとに分類しグラフ化したもの。楽しかった理由は、次の4点に整理した。

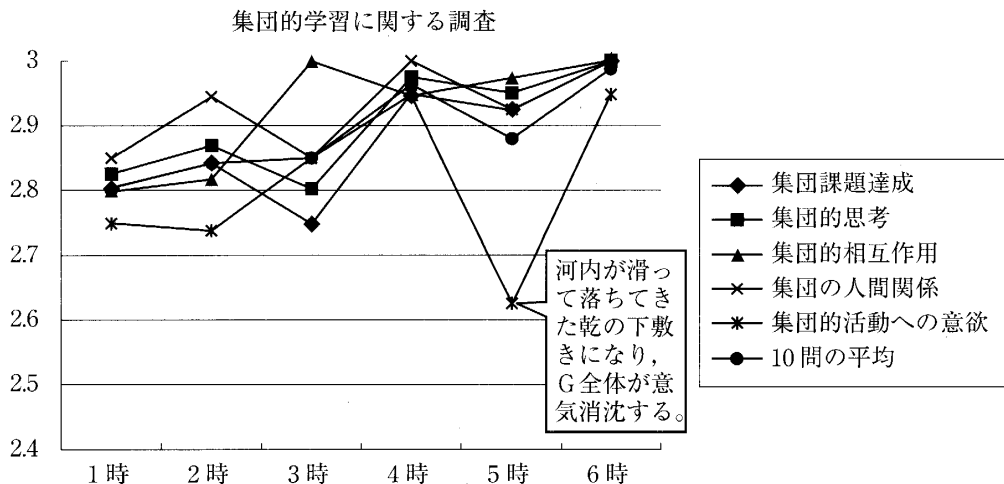
- ① 運動への興味
- ② 仲間とのふれあい
- ③ 達成感
- ④ 協力



時間を経るごとに仲間との繋がりの中から得た、課題を克服した達成感の割合が多くなってきている。これは、運動の楽しさの本質が達成

感にあることが他の研究からも言われている。この結果からも運動の楽しさが達成感にあることが推論される結果となった。

■ 集団的学習に関する調査



グラフを見ると集団の人間関係が4時まで高くなっている。集団のまとまりが他の項目をリードしてすすみ、3、4時間で集団のまとまりができてくるのではないだろうか。教材の特性と考えることもでそうである。今後もこの点に注目して学習計画を立てたいと考える。

### 参考資料

#### 児童の感想

- ・タイムは確かに1分を切らなかったけれど、達成できたときは、すごく気持ちがよくて、とてもうれしかった。ぼくは、みんなの気持ちが一つになった気がした。この、「そそりたつかべ」はぼくたちは、初めはできませんでした。でも、最後にはできるようになった。ぼくは心が一つになった気がしました。もう一度やりたいです。このメンバーで。(A男子)
- ・ぼくが落ちていなかったら、もっと早くすんでいたのに。ぼくは、半分、泣きそうになっていた。でも、みんなが「Bさんのせいじゃないよ。」と言ってくれた。とてもうれしかった。いままでにない気持ちになった。そして、本番。ついにあの「川渡り」がやってきた。ゆっくり、慎重にやった。みんなの心を一つにして。そしてついに大成功。みんなでなしとげたという感じがした。(B男子)
- ・最初に、半分くらいいったところでYさんが落ちてしまった。みんな最初は「あっ。」という感じの顔だけど、みんなYさんに「どんまい」と声をかけた。私も落ちかけた。黄色が一番遅かったけど、赤、青がいっぱいアドバイスをしてくれた。それが一番、うれしかった。(C女子)
- ・木を渡っているときに落ちるところをEさんが助けてくれました。そのおかげで私は落ちないですみました。他にもBさんをFさんが助けたり、GさんがHさんを助けたり、みんながみんな助け合いました。本当に楽しかったです。(D女子)

### 参考文献

- \*北川 隆 体育科の運動領域論 pp.48-56 高橋他編 体育科教育学入門 2002
- \*体育科教育 2001. 第49巻第1号 pp.66-69
- \*チャレンジ運動による仲間づくり ダニエルW・ミドルラ, ドナルドR・グローバー著 高橋健夫監訳 大修館書店
- \*大阪府豊能町立吉川小学校「研究紀要」2005 やまかつ株式会社